

よこすか景観 ニュース

第19号 発行 2019/02/01
よこすか都市景観協議会



大楠山展望台からの眺望

. Y O K O S U K A C I T Y .

三浦半島最高峰！大楠山から見た横須賀の景観

大楠山 とは

大楠山は横須賀市西部に位置する山で、関東 100 名山のひとつでもあります。三浦半島で最も標高の高い山であり、山頂の展望台からは横須賀市全体を一望することができます。また、西側には前田川、東側には平作川の源流を有し、水辺や自然の豊かなハイキングコースが整備されています。今回、よこすか景観ニュース・HP 編集委員会で立石公園から前田川遊歩道を經由し、しょうぶ園に抜けるルートで実際に現地の取材を行いました。

● 大楠山

三浦半島のほぼ中央にある大楠山は標高 242m と低山ではありますが、三浦半島の最高峰です。その一番の魅力は山頂からの 360 度のパノラマです。東京湾、房総半島、伊豆半島、富士山の他、横浜みなとみらいのビル群やスカイツリー、気象などの条件が揃えば遥か南アルプスも望むことが出来ます。

司馬遼太郎氏は、著書『三浦半島記』に、「その山頂からの眺望は、日本国のどの名山よりもすぐれている」と記しています。

この地域は、2 万年数千年前の旧石器時代の昔から人々の生業がありました。武士の都、鎌倉からほど近いこの地は、鎌倉幕府の有力御家人三浦氏の拠点となり、城館を想わせる地名が現在まで伝わっています。初代侍所長官の和田義盛創建と伝わる芦名の浄楽寺には、鎌倉時代の仏師、運慶作の仏像 5 体が大切に現在まで受け継がれています。江戸時代、海の道が古来より開かれていた大楠地区は、世界最大の都市・江戸と結びつき大いに賑わいました。横須賀市の市民資産に指定された建造物や、古い民家なども残り、今でも人々の暮らしに根づいています。

(岩崎委員)



大楠山山頂の石碑



①



立石と梵天の鼻

● 立石公園

横須賀市秋谷 3-5 に位置する立石公園ですが、江戸時代には浮世絵師・安藤(歌川)広重が「富士三十六景」の「相州三浦の海上」や「相州三浦秋屋の里」と題した立石海岸の風景を描いています。浮世絵「相州三浦秋屋の里」の左には富士山、右には立石公園の「梵天の鼻」と呼ばれる松の美しい岬と立石が描かれています。環境庁によると日本の海岸線の 40% は人工物で手が加えられているらしく、特に東京湾は純粋な自然の海岸線が数少ないが、この海岸は数百年、自然のままの姿を保っています。

駐車場は普通車 62 台、二輪車 10 台となっておりますが、入り口が狭いため大型車の駐車はできません。料金は無料で 7 月 1 日～8 月 31 日は 6:00～20:00、その他の期間は 24 時間となります。横須賀が誇る絶景を是非ご覧いただければと思います。

(門井委員)